

和算で注目の映画「算法少女」京都上映にあわせ、 本校生徒の作成した「算額(絵馬)」を劇場展示します！

同志社中学校

江戸時代の数学「和算」を描いた「算法少女」(原作 遠藤寛子 1973年)がアニメ映画になりました。(http://sampo-shojo.oops.jp) この夏休みに京都みなみ会館で上映されます。

7月18日(火)～7月23日(日)、各日1回上映されます。

本校では、3年生のピタゴラスの定理の学習で「和算」を学び、生徒が作成した算額(絵馬に自作の問題・解答を描く)を三井寺(大津市)に毎年展示させていただいております。

今回、京都みなみ会館様のご厚意により、7月4日(火)～7月23日(日)に、本校生徒が作成した算額(絵馬)を展示していただくことになりました。今、教育現場では和算(江戸時代に日本で発展した数学)に注目が集まっており、教科書にも各地の算額が紹介されております。

映画「算法少女」と合わせて、日本で発達した文化・学問に触れる機会となっております。

ぜひTV・新聞等でご紹介の上、多くの皆さまにお知らせくだされば幸いです。

<上映館> 京都みなみ会館 (http://kyoto-minamikaikan.jp/)

<各日の上映開始時間> 7/18(火)～21(金) 17:30

7/22(土) 14:55

(※上映後、外村監督の舞台挨拶あり)

7/23(日) 20:40

<お問い合わせ先>

〒606-8558

京都市左京区岩倉大鷲町 89

同志社中学校

園田 毅(数学科)

Tel: 075-781-7253 Fax: 075-781-7254

Email: t-sonoda@js.doshisha.ac.jp





同志社中学校内での展示

参考

「和算」とは

江戸時代（1601～1867）には、「和算」と呼ばれる、日本独特の数学が発達しました。最近の研究では、江戸時代は武士階級だけでなく、多くの人々が字を書き計算する能力を持っていたことがわかっています。そういう力があるから、農民が年貢を計算して庄屋や代官と交渉したり、計画を立てて一揆を起こしたりすることができたわけです。

また、江戸時代には下のような有名な数学者もいました。

よしだみつよし
吉田光由（1598～1673）江戸時代のベストセラー「じんこうき塵劫記」を書いた。

せき たかかず
関 孝和（1642～1702）「さんぎ算木」～積み木のようなもの～を使って、3元以上の連立方程式の日本独特の解き方を編み出した。

今私たちの使っている数学は明治時代から

実は、今私たちが使っている方法の多くは明治時代（1868～1902）に西洋の数学「ようさん洋算」として、日本に取り入れられたものです。だから、江戸時代は、例えば、

- ①筆算がなかった。数学書も縦書きの説明。
（そろばんは使います。）
- ②xなどの文字がないため、方程式も横書きの式としての表現がない。代わりに、「申」（さる）、「東」（ひがし）、「乾」（いぬい）といった字が文字の代わりに使用された。

というかんじでした。現在、私たちが学校で学んでいるスタイルとかなり違いますね。

映画と算額を楽しんでくださいね！

寺社に自作の問題や解答を奉納、掲示する風習も江戸時代に端を発しています。京都でも御香宮、八坂神社、北野天満宮、長岡天満宮などで見る事ができます。これらは、完成の感謝とともに他の流派の数学者に挑戦する、いわば他流試合の様相もあったとのこと。

映画とともに中学生が作成した算額も楽しんでくだされば幸いです。（数学科 園田記）



京都みなみ会館

kyoto-minamikaikan.jp

☎075(661)3993 @minamikaikan

市バス九条大宮すぐ/近鉄・東寺駅西へ150m

無料駐車場あります。

